

# Asahi

隔月1日発行

MAY 2009 Vol.60

朝日大学
編集・発行／朝日大学企画課  
<http://www.asahi-u.ac.jp/>

朝日大学は、国際未来社会を切り開く社会性と創造性、そして、人類普遍の人間的知性に富む人間の育成をめざします。

## 2009年度 朝日大学入学式を挙行

キャンパス内の桜が開花し新年度を迎えた4月1日(水)、本学穂積キャンパス10周年記念館大ホールにおいて2009年度朝日大学及び朝日大学歯科衛生士専門学校合同の入学式(春季)が青空のもと厳粛に挙行された。式には、姉妹校である明海大学安井利一学長、テキサス大学サンアントニオ校の関係者をはじめ多くの来賓が出席した。



新たな気持ちを胸に入学の宣誓

**式典**では、学部、大学院、留学生別科日本語研修課程、歯科衛生士専門学校の入学生540名が、大友克之学長並びに藤田厚専門学校長からの「入学許可」の宣言を受け、朝日大学での新たなキャンパスライフをスタートさせた。

大友学長から「入学された皆さん、本学の建学の精神に立脚し、これから的人生において自分自身が社会にどのように参画していくかを在学中にしっかりと考え、日々研鑽を積み、強い自信と誇りを持って、この学び舎を巣立っていただきたい。入学生の皆さんこそが、朝日大学の未来であり、希望・夢なのです。」との告辞があった。

### 理事長から祝辞

続いて挨拶に立った宮田侑理事長からは、「これから的生活では、第一に、

「建学の精神」遵守を誓う

### CONTENTS

朝日大学入学式を挙行	01
FD教員研修会が開催される、他	02
「物流研究奨励賞」受賞、他	03
春のオープンキャンパス開催、他	04
高大連携、他	05
エコバッグを製作、他	06
スポーツ	07
栄えある「宮田賞」受賞、他	08



祝辞を述べるテキサス大学の学生

自らのマーケットバリューを高めるよう努力してください。第二に、日々自らにモデルチェンジを課し続けてください。第三に、他流試合に通用する人材となってください。第四に、常に創意と工夫、誠実さをもって全てのことに対応してください。」と新入生たちへ激励の言葉(祝辞)が述べられた。

これに対し、学部、大学院、留学生別科日本語研修課程、歯科衛生士専門学校の入学生代表者からは、それぞれ「建学の精神を遵守し、学業成就に向け努力します。」と新たな気持ちを胸に力強い宣誓が行われた。

### 厳粛な式典に彩り

今年は、県内から学校法人佐々木学園(鶴谷高等学校)理事長佐々木淳先生、県外からは新潟県より東京学館新潟高

等学校校長渡邊銀次郎先生、同校教務部長中村英一先生、高知県より土佐塾中学校・高等学校元教頭上田博昭先生、沖縄県より前沖縄県教育長仲宗根用英先生、元沖縄県高等学校校長協会会长仲筋一夫先生らを迎えた。また本学の建学の精神である国際性を反映し、海外交流校であるテキサス大学サンアントニオ校より歯学部教員2名と学生10名が参列し英語による祝辞を述べ、厳かな式に彩りを添えていた。

式典終了後には、新入生にキャンパスを紹介するDVDが上映された。その後、一転趣向を変えて本学体育会メンバーたちが登壇し「ウェルカムパフォーマンス」を披露。公式戦用ユニフォームに身を包んだ先輩たちから熱いメッセージが送られ、式場の興奮は頂点に達した。



体育会によるウェルカムパフォーマンス

# Lecture Meeting

## FD教員研修会が開催される 魅力ある大学づくりをめざす

**F**D活動推進委員会(委員長:赤石健司副学長)主催による「朝日大学第8回FD教員研修会」が、3月25日(水)に本学穂積キャンパス5号館講義室で開催された。

本研修会は、授業方法や指導方法等の改善と向上を通じて、魅力ある授業を学生に提供することを目的として開催されている。

本学の教育職員(大学院を含む。)100名余りの参加があった今回の教員研修会では、海野昭史教授・西善也講師(法学部)から「英語教育におけるLL教材使用に関する報告」、岩崎大介教授(経営学部)から「ビジネス企画学科の教育目標と初年次教育手法」、石津恵津子講師(歯

**FD** [Faculty Development]  
教員の教育能力を高めるための実践的手法

学部)から「臨床実習でのPBLチュートリアル」と題した講演がそれぞれ行われた。

### 活発な質疑応答

その後、研修会場では学生への対応や授業方法等についての質疑応答が活発に行われ、参加した教員たちは、今後の授業改善等に役立てばと真剣なまなざいで教員研修会に取り組んでいた。

朝日大学では、今回開催された教員研修会のほか、FD推進活動として授業理解度調査、相互授業参観、FDワークショップ、ランチタイム・ミーティング、教育方法研究会などが全学や各学部で積極的に実施・開催され、「魅力ある大学づくり」が着実に進められている。



パワーポイントを利用し講演する西講師

## 教職員を対象に開催! e-Learning講演会

**本** 学6号館大講義室において情報教育研究センター主催による「e-Learning」講演会が開催された。

当日は、100名余りの教職員が出席し、「e-Learning」への関心が高いことがうかがえる講演会となった。

本学の情報教育研究センターでは、e-Learningの環境整備の1つとして「Moodle(ムードル)」と呼ばれる学習管理システムを導入し、授業運営をサポートしている。

講演会では学外講師の松島桂樹氏(武藏大学経済学部教授)から「効果的なe-Learningの実施—学生を成長させるITの活用をめざしてー」と題した講演があり、e-Learningの概要と他大学における実例が解説された。

その後、本学におけるe-Learningの活用例として、歯学部口腔病態医療学講座(口腔外科学分野)の住友伸一郎准教授、経営学部経営学科の畦地真太郎准教授、情報ネットワークセキュリティ委員会教育部会の服部徳秀部会長から、それぞれ実例の紹介があった。



教職員がe-Learningを学んだ

### Moodle(ムードル)

[Modular Object-Oriented Dynamic Learning Environment]  
インターネット上で授業用のWebページを作るためのソフト

## 公開講演会を開催

**法** 学部及び大学院法学研究科主催の「公開講演会」が、2月28日(土)及び3月7日(土)の両日に本学穂積キャンパス5号館講義室で開催された。

同講演会は、法学部・法学研究科における日頃の研究成果を地域社会に還元すると共に、学部及び研究科のPR(広報)を広く行うことを目的に毎年開催されている。

### 研究成果を公開

〈2月28日〉

「ドーピング問題を考える」 佐藤千春教授  
「政治意識と民主政治」 三田清教授

〈3月7日〉

「音楽と法律」 大塚鏡子教授  
「選挙の日米比較」 阿部竹松教授

公開講演会当日は、大学近隣の一般受講者をはじめ、学部学生、大学院生、

教職員など150名を超える聴講者があり、演壇に立った講師たちは、専門的な知識を



選挙の日米比較を講演する阿部教授

### 研究成果を地域社会に還元

得ようとする聴衆を前にわかりやすく工夫を凝らした講演を行った。

朝日大学で新たな知識を身につけたい、さらに知識を深めたいという参加者の真剣なまなざしが印象的な公開講演会であった。

## 岐阜県図書館文化講座 ちょきん(貯筋)の話

**岐** 岐阜県図書館多目的ホール(岐阜市)において、岐阜県図書館主催の「第5回文化講座」開催された。

岐阜県図書館では、地域住民へ様々な情報を発信することで、定期的に文化講座が開催されている。今回は本学経営学部ビジネス企画学科の山本英弘教授が講師となり、「ちょきん(貯筋)の話」と題して、身体のしくみや加齢による筋力の変化などの基礎知識や筋力トレーニングの必要性について受講者へ実演・実技を交え、わかりやすく講演を行った。

### 出張講座を活用

本学には、本学が有する豊富な人的資源を活用し、高校教育や生涯教育の充実



実演・実技を交え講座が進行した

と発展に寄与するために「出張講座」の制度が整備されている。毎年高等学校をはじめとする様々な機関から講師の派遣要請がなされており、今回の講座もこの制度に基づき行われたものである。

山本教授の講演は大好評で、受講者からは「ちょきん(貯筋)の必要性を実感した。さっそく実践してみたい。」などの感想が寄せられた。

今後も朝日大学では、「出張講座」などを通じて地域社会への貢献を果たしていく。

# Commendation

## 日本物流学会から 「物流研究奨励賞」を受賞!



忍田会長から表彰される邓さん



**大** 学院専門研究科博士前期課程(修士)修了生の邓茜尹さんが日本物流学会から「物流研究奨励賞」を受賞。本学大学院経営学研究科の客員教授でもある忍田和良日本物流学会会長から賞状と記念品の盾が授与された。

邓さんは修士論文『物流における環境会計に関する研究』(長岡研究室)において、「物流は環境マネジメントの対象としては確立しているが、環境負荷とコストの同時削減を推進する視点からは環境会計の段階にまで発展させることが不可欠である。」と主張した点が高く評価された。

邓さんは、経営学研究科教員の懇切な指導にお礼を述べると共に、この受賞を契機として今後とも一層の研究を続けていきたいとの抱負を語った。

## 「博士課程研究発表会」を開催 学部では「懸賞論文」の表彰

**本** 学大学院経営学研究科で「博士課程研究発表会」が開催された。

今回の研究発表会では、本年3月に修士(情報管理学)の学位を授与された修士論文の内容を中心に4件の発表があり、会場では出席した約30名の大学院生、教職員、同窓生たちによる質疑応答が活発に行われた。また、会場を移して開催された懇親会会場でも、出席者それぞれの研究テーマに関する議論がさかんにくり広げられるなど実り多い研究発表会となった。

### 懸賞論文の表彰

一方、経営学部では、経営学会主催による「学生懸賞論文」の応募が行われ、審査の結果、奨励賞に「中国人研修生・技能実習生の現状」と題した論文が、また、佳作には「諫早拓事業は適切だったのか」が選ばれ、卒業式(3月12日)後の



卒業記念パーティー会場で表彰を受ける

記念パーティー会場で授賞論文の著者(学生)へ賞状と記念品が贈呈された。受賞者は会場からの大きな拍手で受賞を祝福されていた。

朝日大学  
名誉教授  
兼松 宣武 氏



## 朝日大学 名誉教授称号授与

**朝** 日大学名誉教授の称号が、本年3月定年退職の歯学部兼松宣武氏(口腔外科学分野)に授与された。

このたびの授与は、同氏の本学歯学部における教育・学術上の功績が高く評価されたものである。

# School Events

## 春のオープンキャンパス開催 未来の朝日大生をめざす

**歯** 学部を対象とした「オープンキャンパス」が3月26日(木)に本学穂積キャンパスで開催され、全国各地から歯学部への入学をめざす高校生、保護者たちが多数集った。

高校の新2・3年生を対象として開催された今回のオープンキャンパスは、未来の歯科医師たちへ、終了したばかりの「2009年度入試」、特にAO入試や推薦入試結果の情報を伝えると共に、本学歯学部が求める学生像などについてわかりやすく解説することを目的として開催されたものである。

### UCLA学生が参加

会場では、本学歯学部での短期海外研修のために来日しているカリフォルニア大学ロサンゼルス校歯学部の教員・学生たちが加わり国際交流の様子を紹介。その後は、授業の様子、サークル・アパート生活、臨床



UCLA歯学部の教員が交流の現状を紹介

実習や海外研修などについて在学生たちが「ホンネ」で語っているDVDが上映され、参加者たちは熱心に映像に見入っていた。2010年に向けて「未来の歯科医師」たちのスタートは切られたようだ。

また、3月21日(土)には、法学部・経営

学部を対象とした「オープンキャンパス」が開催され、本学への進学を志す高校生たちが本学穂積キャンパスを訪れ、模擬授業を体験したりランチバイキングを楽しんだりし、朝日大学で「1日大学生」を満喫していた。

## 新入学外研修を実施 新しい学友とともに

**4** 月のオリエンテーションの一環として実施され毎年恒例の行事となっている「新入学外研修」が、法学部・経営学部は4月3日(金)、歯学部は4月9日(木)・10日(金)の日程で各学部ごとに実施された。

### テーブルマナーや 異文化体験

法学部の学外研修は、岐阜市内の岐阜グランドホテルで実施され、杉島正秋法学部長と飯沼敦朗岐阜県弁護士会副会長からの「法学部新入生に向けて」と題した講演を聴講、その後、社会人としての心得である「テーブルマナー(洋食)」の講習を緊張した様子で受けていた。食事



「テーブルマナー」を学んだ(法学部)

がすすむと各テーブルでは話もはずみ笑顔もみられ指導教員と新入生とのうち分けた様子がうかがえた。

また、経営学部は、愛知県犬山市にある野外民族博物館リトルワールドへ大学からバスで移動、指導教員らと共に園内を散策し新しい仲間をつくったり「異文化体験」を行い交流を深めた。

### 寝食を共に研修

一方、歯学部では、F1レースも開催される鈴鹿サーキット(三重県鈴鹿市)において1泊2日の宿泊研修を行った。新入生たちは歯科医師を目指す学生の心構



歯科医師を目指す学生の心構えを研修

えやグループ研修、鈴鹿サーキットでの自由時間を過ごし、新しい友達、教員らと共に6年間のキャンパスライフのスタートをきった。

## 日本歯科理工学会優秀賞を受賞

**本** 学歯学部の口腔機能修復学講座(歯科補綴学分野)の宇野光乗講師をはじめ本学教員5名が、「日本歯科理工学会学術講演会発表優秀賞」を受賞した。

今回の受賞は、日本歯科理工学会第52回学術講演会において発表した『銀ナノ粒

子を含む歯科用陶材の製作』が高く評価されたものである。

表彰式は4月11日(土)に開催された同学会第53回学術講演会の席上で行われた。受賞教員の今後の教育研究活動が大いに期待される。

# School Events

## 高大連携 県岐商で「課題研究」授業

**岐** 阿波立岐阜商業高等学校からの連携依頼に基づき、1年間にわたり高大連携授業を実施した。

科目は、商業の専門科目で3年生が履修する「課題研究」で、同高校教諭と共同授業を定期的に実施し、研究発表の指導を行った。この取り組みは、同高校が文部科学省から研究指定を受けた「新時代に応じた高等学校教育改革推進事業」の一環として実施されているもので、中畠千弘教授(本学経営学部教授)が担当した。

研究テーマは「魅力ある店舗に共通す



プレゼンの方法を学ぶ生徒たち

る要因研究」で、生徒自らが問題意識を高め、研究テーマを議論し、岐阜市内の柳ヶ瀬商店街の店主インタビューにまで踏み込んだ一連の調査は、方法論、分析結果ともに評価に値するものであった。

### 研究成果を発表

本年2月には研究の集大成として、全校生徒、保護者、並びに文部科学省をはじめとする教育関係者を前に「課題研究発表」が行われた。

また発表会当日は、岐阜県教育委員会主催の「新時代に応じた高等学校教育改革推進協議会」も開催され、本学から大友克之学長、岩崎大介教授(ビジネス企画学科長)、中畠教授の3名が委員として出席し、研究の在り方、進め方、研究の評価などについて意見を述べた。

こうした取り組みを通じて、高校をはじめ、地元との連携がより一層深まることとなる。

## 経済危機を乗り越える 「企業見学会」を開催

**マ** 一ケティング研究所(所長:鈴木博道教授)では、いちい信用金庫(愛知県一宮市)からの委託により、「企業見学会」を開催。この見学会には、先代から会社を受け継ぐ若手経営者で構成される次世代クラブ会員20社が参加した。

5年目を迎えた今回は、シートカバー、シートクッション、インテリア小物など、主に自動車用繊維製品の企画・製造卸販売を手掛ける株式会社ボンフォーム(安八郡安八町)を訪問。CAD、CAM、レーザーカッターなどの最新設備や出荷管理を担う物流システムの見学に加え、西脇保彦社長から、二代目社長として企業を大きく成長させてきた過程や経営手法について講演があった。厳しい経済環境にありながらも、全社員がモチベーション高く保ち、一丸となって危機を乗り越えていく姿勢を強く感じ、同じく二代目として会社を引き継ぐ経営者にとって大変貴重な見学会となった。



西脇社長の講演に熱心に耳を傾ける経営者

また、時を同じくして今期3回目の「経営分科会(研修会)」が開催され、本学経営学部ビジネス企画学科の教員が講師を務めた。分科会では、「経営戦略」(鈴木教授)、「部下の育て方」(岩崎大介教授)、「消費トレンド予測」(中畠千弘教授)の3分野にわたる研修を行った。

分科会には50名を超える若手経営者の参加があり、会場内は熱気に溢れていた。



山本学友会長から表彰される

大きな拍手で受賞を祝福されていた。

今後の活躍が期待される。

## 事務職員研修を実施

### SD活動の活性化を進める

**今** 日の大学(高等教育)では、教育研究活動をサポートする事務職員の資質向上が不可欠であり、教育職員のFD(ファカルティ・ディベロップメント)活動推進と共に、事務職員によるSD(スタッフ・ディベロップメント)活動のさらなる活性化が求められている。

本学では、事務職員のより一層の資質向上を目的として、これまでにも事務職員を対象とした各種研修(管理職、係長、一般、採用時、文書実務、接遇、教育事情及び教育関係法令など)が学内外で定期的に実施されている。

昨年度からは新たに一般職員を対象とした「事務分掌研修」を実施、各部署の



各事務課長による事務分掌研修会を開催  
課長が講師を務め、各課における業務の現状と課題を研修し事務分掌実務に対する見識を深めた。また、研修終了時にはアンケート調査も実施され、寄せられた意見は本年度の研修に生かされることとなる。

朝日大学では、建学の精神に基づき今後もSD活動の活性化を進め、教育職員らと共に「魅力ある大学、選ばれる大学づくり」に参画していくこととなる。

### SD [Staff Development]

職員の意識改革、能力開発の実践的手法

## 「学友会表彰式」が行われる 功績顕著な学生を表彰

**2** 008年度後学期学友会表彰式が、3月12日(木)・18日(水)に本学穂積キャンパスで行われた。

同表彰式は、学友会活動において功績顕著な学生に対し「会長賞、奨励賞」を授与する

もので、前期・後期の年2回行われている。今回、会長賞は6団体23個人に、また、奨励賞は2団体19個人に贈られた。

表彰式では、山本英弘学生部長(学友会長)から賞状と副賞がそれぞれに授与され、

# School Events



エコバッグを手にする大友学長と学生

## エコバッグを製作 環境問題の意識を高める

**環** 境問題を考える本学のエコプロジェクトの一環として、法学部の学生たちが、オリジナルのエコバッグを作成した。

エコバッグの製作は、岐阜県の自然環境審議会委員を務めている同学部の宮坂果麻里講師が、昨年夏にゼミ学生とエコプロジェクトを立ち上げたことからスタート。デザインから製作発注まで学生たちが手掛けた。

エコバッグは、木をイメージした茶色

の布地を用い「I ❤ ECO」のデザインがプリントされたシンプルなバッグで、新入生や環境に関する講習会の参加者に配る予定のこと。今回プロジェクトメンバーの学生たちは、「大学生にも使えるようデザインした。レジ袋の削減などみんなで身近な環境問題に取り組んで行きたい。」と語り、大友克之学長にエコバッグを手渡し完成を報告した。大友学長は、製作に携った充実感や苦労談を聞き、「学生たちの環境意識が少しでも高まるきっかけになってほしい。」と話した。

エコプロジェクトがキャンパス内で着実に広がっていくことが期待される。

## 強化指定チームが決定 2012年ぎふ清流国体に向けて

**本** 学体育会の9つの競技団体が、このたび「2009年度強化指定クラブ」として財団法人岐阜県体育協会から認定された。

2005年度から始まった強化指定期制度は、県体育協会が行う「国体特別支援事業」の一環で、平成24年(2012年)に岐阜県での開催が決まっている国民体育大会に向けた選手強化を目指すと共に、



日本トップレベルの競技大会や日本代表として世界で戦うアスリートを輩出するため、指定選手やクラブチームが競技に専念できる環境整備などを行うことを目的としている。

## 競技力の向上

本学体育会から選ばれた9つのクラブは、岐阜市内の岐阜県庁大会議室において行われた認証式で「競技力向上強化指定証」の交付を受けた。今後、2012年の「ぎふ清流国体」に向け各クラブのさらなる競技力向上が望まれる。

朝日大学強化指定クラブ名	対象
バレーボール部	成年男子
自転車競技部(C・ハイテクニカ・R)	成年男子
相撲部	成年男子
卓球部	成年男子・女子
フェンシング部	成年男子・女子
朝日大学テニスクラブ	成年男子
ホッケー部	成年男子
岐阜朝日クラブ(BLUE DEVILS)	成年男子
ハンドボール部	成年男子

### 診療科紹介

## 口腔内から 顔面領域まで

### ～「歯科口腔外科」の取り組み～

本学歯学部では、信頼性の高い医療と予防医学の実践により地域社会への貢献を果たすと共に、病診連携に積極的に取り組んでいます。

今回の「診療科紹介」では、附属村上記念病院(所在地=岐阜市橋本町)「歯科口腔外科」の取り組みを村松泰徳准教授から紹介願うことします。

### 歯科口腔外科とは

口腔外科とは、口腔内及びその周囲組織の疾患や疾病の治療を行なう診療科です。本診療科では、先天異常(口唇裂、埋伏歯など)、炎症(口内炎など)、外傷(歯の折損や脱臼、顎骨の骨折など)、囊胞、顎変形症、腫瘍(良性・悪性)、顎関節症、唾液腺疾患など顎骨や歯牙、口腔内から顔面領域までの様々な疾患を取り扱っています。また、全身的に重い病気がある人で一般的の歯科医院では治療が困難な場合や、全身状態に注意を払いながら治療を進めなければならない患者さんの歯科治療も行っています。

### 診療科の特徴

本診療科は地域支援病院の診療科として、初診患者さんのおよそ50~60%が近隣の医院からの紹介患者さんとなっています。患者さんやご依頼いただいた先生方のためにも、責任を持って治療にあたっております。

特に力をいれて取り組んでいるのが口腔癌の治療です。口腔癌とは舌癌、歯肉癌、頬粘膜癌、口蓋(硬口蓋)の癌、口唇癌、口腔底癌で、それと唾液腺の癌も治療対象となります。口腔癌は体全体の癌の中でおよそ2%程度と言われていますが、口腔の各組織は摂食、咀嚼、嚥下、会話、呼吸などに大きな役割をはたしており、それらの組織を失うことは機能が低下あるいは喪失し、生活の質も大きく低下してしまいます。

### 治療体制

治療としては手術療法を中心に、抗癌剤による化学療法、放射線治療を組み合わせ治療成績の向上をはかるとともに、切除後の即時再建を行うことによって可能な限り機能を補い生活の質の向上を目指しております。またこれらの治療には、抗癌剤の超選択的動注化学療法の導入や、脳神経外科や整形外科専門医との協力の下、組織再建の皮膚や骨組織に対する顕微鏡下微小血管吻合による血行再建術など、最先端の技術や手法を積極的に取り入れております。



手術中の口腔外科スタッフ

# Sports

## 体育会フェンシング部・廣瀬恵理加選手 ナショナルチーム入り!



**本** 年2月に東京で行われた「2009年ナショナルチーム最終選考会」において廣瀬選手(本年3月卒)が見事「準優勝」を果たし、フェンシング女子サーブル日本代表の座を勝ち取った。今後は日本代表選手として海外を転戦し、2012年に行われるロンドンオリンピックに向けて挑戦していく。

くことになる。

また、本学フェンシング部OGの中山セイラ選手(大垣共立銀行)は同選考会で「優勝」し、1位通過で日本代表の座をつかんだ。4名で構成される日本女子サーブルのナショナルチームに朝日大学から2名の選手を輩出することとなった。

北京オリンピックで太田選手が日本フェンシング史上初の銀メダルを獲得し話題となった「フェンシング」。朝日大学から2012年のロンドンオリンピックへ出場する選手が誕生するのも夢ではない。

## リーダーズキャンプ開催!

### 将来のリーダーを育成

**本** 学の恒例の行事となつた「リーダーズキャンプ」が羽島市のかんぽの宿で3月16日(月)・17日(火)に1泊2日で開催され、学生・教職員約70名が参加した。

リーダーズキャンプは、各種団体(学友会、体育会、大学祭実行委員会、学友会中央協議会)の学生代表を集め、毎年宿泊形式で行われている。このリーダーズキャンプは、リーダーシップの育成、クラブ・同好会活動の活性化、参加者相互の親睦を深めることを目的としている。

### 将来のリーダー

両日共に分刻みのタイムスケジュールの中で、他己紹介、グループ討議、フリーディスカッション等のセッションを次々とこなした学生たちは、短期間の間に将来のリーダーとしての素養を身につけた様子であった。参加学生からは、「クラブ運営のヒントをつかむこと



笑顔の他己紹介でみんなの関心をつかむことができた。「これからは課外活動でリーダーシップを発揮したい。」といった感想が寄せられた。

参加学生たちのキャンパス内での活躍が期待される。

## 長屋氏がホッケー部監督に就任

**体** 育会ホッケー部監督に、2004年から全日本代表男子ホッケーチームの監督を務めた長屋恭一氏(元岐阜総合学園高校教諭、同校ホッケー部総監督)が就任した。

同氏は、自身も岐阜西工業高校と天理大学でプレーし、メキシコオリンピックへも出場。アジア競技大会では銅メダル獲得の経験を有する名プレイ

## 岐阜県体育協会表彰 卓球部と自転車競技部が受賞

「**(財)** 岐阜県体育協会表彰式」が岐阜市内のホテルグランベール岐山において行われた。この表彰式は、長年にわたって県スポーツの発展に貢献した役員や、全国大会で優勝したチーム・選手などをたたえるもので、本学からは、体育会卓球部と自転車競技部が受賞した。卓球部(女子)は「優秀

チーム賞」を、また、10名の若きアスリート(卓球7名、自転車競技3名)たちが「優秀選手賞」をそれぞれ受賞した。

田口義嘉壽(財)体育協会会長からは、「2012年のぎふ清流国体で天皇杯、皇后杯を獲得できるよう、さらなる飛躍を期待します。」と激励の言葉が受賞者たちにかけられた。

## フェンシングAU杯を開催

### 朝日大学にフェンサー集う

**瑞** 穂市内の朝日大学フェンシング場で4月4日(土)に「第8回朝日大学フェンシングAU杯」が開催。岐阜県内の7つの高等学校高校から70名のフェンサーたちが集い、日頃の練習成果を発揮した。

AU杯は国際大会で活躍する部員や指導者が在籍する本学体育会フェンシング部が中心となり、競技力の向上、高校と大学との交流、地域社会に開かれた大学を目指し、フェンシング場が完成した2002年度から体育会主催行事(会長:大友克之学長)として毎年開催されている。8年目を迎えた今回は、ハイレベルな戦いが数多く見ら



熱戦がくり広げられた

れ、「2012年岐阜清流国体」に向かって高校生の競技力が向上していることがうかがえた。

## 野球部には喜多コーチ

コーチに就任した。大学日本一を決める「明治神宮大会」での優勝を悲願としている本学野球部にとって、頼もしい指導者が加わった。



長屋監督



喜多コーチ

# Hot Topics

## 栄えある「宮田賞」受賞 建学の精神を胸に羽ばたけ

**2** 008年度朝日大学卒業式(穂積キャンパス10周年記念館大ホール)で、「宮田賞」の授与が行われた。

本学の創立者である学校法人朝日大学の前理事長宮田慶三郎の素志により制定された「宮田賞」は、在学中の学業成績が特に優れた者や課外活動に貢献し本学の名誉を昂揚させた学生を対象に表彰するものであり、受賞者(7名)には「表彰状」と「銀杯」が大友克之学長から贈呈された。受賞者の今後の社会での活躍が大いに期待される。



また、「宮田賞」授与に先立ち行われた学長告辞では、大友克之学長から朝日大学を旅立つ卒業生たちへのなむけの言葉として「建学の精神」が贈られた。式典終了時には参列者全員が拍手で卒業生たちを見送り、厳粛であった会場内がたちまちに暖かい雰囲気に包まれた卒業式(学位記授与式)となった。

### 学長告辞の要旨

ここに卒業を迎えた皆さん並びにご家族の皆様に対し、朝日大学の教職員を代表して心からお祝い申し上げます。皆さんのまぶしいほどの笑顔や夢を語る姿は、私たちに未来への大きな力を感じさせてくれました。それぞれが新たな環

宮田賞受賞者	
法学部法学科	大森麻里子
経営学部経営学科	奥田泰亘、青柳裕子
経営学部情報管理学科	林 裕子、岡田 愛
経営学部ビジネス企画学科	田村和裕
歯学部歯学科	井貝亮太



銀杯を授与される受賞者

境へと旅立つにあたり今一度記憶にとどめておくべき大切なことがあります。それは、朝日大学の「建学の精神」です。全地球が、全人類が未来から厳しい挑戦を受けている今日において、この挑戦を跳ね除け、輝ける未来を勝ち取ることができるのは、皆さんの若い力と本学の「建学の精神」なのです。この「建学の精神」によって育まれた一員であるという自覚と自信、そして人類普遍の人間的知性と限りない勇気をもって社会に羽ばたいてください。

## 『産業情報社会 —その変遷と展望—』

産業情報研究所が創設20周年記念叢書を刊行

**本** 年3月に「産業情報研究所叢書 Vol.9」として刊行された本書は、産業情報研究所創設20周年記念の趣旨から「座談会」「統一テーマ論文」「自由テーマ論文」の三部で構成されており、産業情報研究所におけるプロジェクト研究の成果物である既刊の叢書とはいさか趣を異にしている。

まず20周年を記念した座談会「産業情報研究所のこれまでと未来」では、産業情報研究所初代所長の阪口昭氏(元経営学部長)とシンクタンクでの経験が長い忍田和良氏(本学客員教授)による、産業情報研究所設立の趣旨と大学附置研究機関の展望についての対談や、若手所員との「産業情報研究所の特色を生かした研究活動の方向性」に関する座談会での活発な議論が収められている。

「統一テーマ論文(4編)」では、『グローバル化時代の地場産業と企業経営』(1995年)に始



まる既刊叢書の著者が、執筆した叢書の主題から今後を展望。また、「自由テーマ論文(7編)」では経営学部教員の研究成果がそれぞれ発表されている。

今回刊行された叢書は特別構成となつたが、現在、3テーマのプロジェクト研究(萌芽的研究)が実施されており、今後、「産業情報研究所叢書 Vol.10」による公表が待たれる。

## いよいよ留学本番 はれて別科課程を修了

**留** 学生別科日本語研修課程修了生の22名は、2008年度卒業式(修了式)に出席した。その後会場を移して行われた修了証書授与式では、森下伊三男別科長から一人ひとりに修了証書が手渡された。森下別科長からは「朝日大学で学ばれたみなさんの今後の活躍を大いに期待しています。」との挨拶があり、修了証書を手にした修了生たちは、穂積キャンパス6号館学生ホールにおいて開催

された法学部・経営学部と合同の卒業(修了)記念パーティーに出席した。

### 今後の活躍を祈る

パーティー会場では「朝日大学で楽しく勉強することができ、友人もたくさんできた。」「別科で学んだことを基礎とし、日本と母国との架け橋となる国際感覚豊かな人材をめざしたい。」と語り、それぞれの今後の活躍を祈りつつ恩師との別れを惜しんでいた。

日本語や日本文化について1年間集中的に学んだ修了生たちは、4月から本学や他大学の学部・大学院などへ進学し日本での本格的な「留学」をスタートする。



今後の活躍を誓いあつた修了パーティー